

東映テレビ部 新型コロナウイルスに伴う制作ガイドライン(+強化案)

2022年9月1日

※スタッフ・キャストに配布し再度徹底。 ※組代わりの新規スタッフキャストにも必ず配布。

【個人の対策意識の向上】

◆感染しない！ 感染させない！

十分な対策を講じていても、感染してしまうことは誰にでも起こり得ます。新型コロナウイルスに感染しない為の対策と節度ある行動を、今まで以上をお願いします。

「自分も(無症状の)感染者である」という前提で、家族・キャスト・スタッフに感染を拡大させないということを心がけましょう。

◆体調に異変を感じたら、責任感より休む勇気。そして報告！

どれだけ責任のある仕事を抱えていたとしても、体調が優れない時、少しでも異変を感じた時は、正直かつ迅速な報告をお願いします。コロナ禍においては、勇気を持って報告することこそが、責任のある行動です。「体調不良」「病院で受診」「PCR 検査を受ける」際は必ず連絡してください。報告が事後にならないように気を付けてください。

【管理の徹底&強化】

◆1日3回の検温

【朝、家を出る前】【昼食前】【夕食前】の1日計3回必ず検温し、各自検温フォームに入力。異状がなく、入力を終えた者しか現場に入れないこととする。

撮休日も同様に、1日3回行う。

◆正しくマスクを着用

撮影時、編集時、準備など、すべての作業において、マスクを『常時正しく』着用する。鼻が出ていたり、アゴにかけるなどでは、マスクを着用しているとは認められないためNG。鼻の周りに隙間が出来ないように着用。

マスクは、効果が高いとされる不織布マスクを着用する。ウレタンマスク、布マスクは使用しない。

併せて、熱中症対策をとる。屋外で、人と離れたところでは、マスクを一旦外す等。喉が渇いていなくても、こまめに水分補給をする

キャストは、本番の間の待ち時間はマスク着用のうえ、セット・ロケセット内部から離れて密をさける

◆手洗い・うがい・アルコール消毒 **強化**

作業の開始前、終了後には特に念入りに手洗いとうがいを行う。

手洗いした上で、消毒(※食事前は、消毒だけでは不十分。手洗いは必須です)。
撮影現場、およびスタッフルーム・仕上げスタジオなどに入る際は、全員が用意されたアルコール消毒液で必ず手指の消毒を行う。また靴裏の消毒もあわせて行う。

ロケセット、セット撮影に入る前に除菌作業を行い、撮影終了後も同様に除菌。その他の時間も可能な範囲で除菌作業を徹底する。特にSET撮影終了後は、換気・消毒を徹底する。スタッフルーム・ロケ車両・控室・洗面所・トイレ・喫煙所なども同様の除菌作業を行う。

◆換気の徹底 **強化**

スタジオやロケ現場をこまめに換気する。**30分に1回、もしくは常時換気とする。**

会議室、スタッフルームのドアは閉めない。

ロケセットでの撮影の際は、事前に現場の換気能力を確認し、換気が十分でない場合、使用を中止する。

現場の二酸化炭素濃度を衛生班がチェックし、密状態になっていないか確認する。

◆ソーシャルディスタンスを常に保つ

あらゆる場面 2mの距離を保つ。割り打ち、監督ベースも同様。

道具などの手渡しは可能な限り避ける。メイク中、ピンマイク装着中は会話をしない。

喫煙する人は、**喫煙中には会話しない。**

スタッフルームには長居しない。各自、なるべく別場所で作業することを心掛ける。

◆移動時の「密」を避ける

バス、機材車、照明車、美術車を利用してのロケ先への移動時は、可能な限り、前後左右に着席せず、密な状況を作らないよう十分な間隔をとって着席する。

車両定員50%(前後左右の一席空け)以下の徹底、および換気の徹底。

必ずマスクを着用し、私語は避ける。窓を空け、十分な換気を行う。

乗車前には除菌スプレーの噴射、手のアルコール消毒を行う。

◆黙食の徹底

食事中的会話は厳禁。原則的には一人で食事をする。隣を空け、向かい合わせは避ける。広いスペースがないロケ地では交代で食事。ロケバスでの**移動飯は禁止。**

弁当は各自で捨てる。食事した机は、食後、各自で除菌する。

◆リモートの活用 & 最小人数・最小時間の打ち合わせ

脚本打合せ・美術合わせ・編集プレビューなど可能な限り、リモートを活用する。

現場で行う打合せ(衣装小道具打ち合わせ、割り打ち等)は最小人数・最小時間を心がける。

強化案① コロナ衛生要員の設置

検温・消毒・換気・密注意喚起など、新型コロナに対する対処法・予防法のノウハウを持つ衛生班を設置。交代で常時一人はスタッフを現場に常駐させる。

医療コンサル担当会社にコロナ感染のリスク監視を依頼。その指導の下、**スタジオ内の二酸化炭素濃度などにも注意を配り、換気および密な状況を作らないことを徹底していく**。衛生班は、腕章を着用し、スタッフにわかるスタイルで現場に付く。

衛生班が危険と判断した場合、撮影を中断し、安全な撮影状況の構築を行う。

その具体策として、現場は「衛生班と連動して撮影を止める決定を下すスタッフ」を任命しておく(例えば、チーフ助監督)。その者は、衛生班が危険な状況を知らせた際は、すみやかに現場を止める。

衛生班の所持備品として抗原検査キット(株式会社東亜産業)、ビニール手袋
消毒液(花王ハンドスキッシュ EX)を常備します。

強化案② 現場で検温

自宅での検温の他、**撮影現場に入るキャスト・スタッフの、朝・昼・晩1日3回の検温を改めて、衛生班による対面で実施**。もしくは各自、体温計(※接触式が望ましい)を持参して計り、**体温を衛生班が確認した上で、各自検温フォームに入力**。体温計の貸し借りは行わない。

⇒検温して 37.5℃以上(※日射による体表温度の上昇を配慮しての数字)の者は、必ず隔離する。30分の休憩後、体温を計り直し、平熱に戻らなければラインプロデューサーに連絡、保健所の指示を仰ぐ。

20時以降、現場コロナ担当者(ラインPと俳優担当)がリストを確認。発熱者がいないことを確認。未入力者の洗い出しを、適宜実施、入力を促す。

※翌日のスケジュールを事務所に入れるタイミングで、俳優担当より翌日出番があるキャストへの体温入力を喚起

強化案③ ゲストキャストの報告義務

キャストおよびエキストラは撮影本番中はマスクを外すことになるので、そこでの感染には特に注意する必要がある。

ゲストをキャストリングする際は、ガイドライン配布及び口頭での注意により(特に、検温と発熱時の報告)、ルール遵守を徹底させる。

ゲストキャストの事務所には、撮影終了後においても「5日間以内に発熱など体調異常があった場合(及びPCR検査を受けた場合)、プロデューサーあるいは制作部に報告する」ことを伝える。

■発熱者が出た場合

- 1、当該キャスト・スタッフは、P部に報告の上、休む。通院して、医師の診断を仰ぐ。
- 2、以下の基準において先行して濃厚接触者を特定。該当者は自宅待機。

※濃厚接触疑いの基準(デルタ株以降、2021年夏～)

発症 3 日くらい前にさかのぼって、以下の条件に当てはまる場合

- ◆ 長時間、同じ空間にいた (近くの席であれば、マスク有でも、ほとんど会話がなくても該当)
- ◆ 長時間、同じ作業をした(マスク有でも、ほとんど会話がなくても該当)
- ◆ マスクせず少しでも会話した(どちらかが着用せず数分間でも該当)
- ◆ 近くで食事をとった(黙食でも場合によっては該当)
- ◆ 飛沫(ツバ、鼻水)を浴びた恐れがある
- ◆ 移動の車が同じだった etc

※ただし、換気など細かな状況を元に最終的には個別に判断

- すべての場合において、PCR 検査の前にプロデューサーに情報共有を。
体調不良の自覚症状があり、医師の判断で検査を受ける必要がある際は、速やかに検査を受ける。医者の診断で念のため受けましようと言われる場合、個別の判断で受ける場合にも、事前に共有を。

■報告・対応プロセス

下記に該当するスタッフキャストが出た場合、すみやかにプロデューサーか、ラインプロデューサーに連絡する。

A) 自宅や撮影現場などでの検温で、体温が37.5 度以上ある。

発熱がなくても、味覚障害・嗅覚障害・倦怠感・頭痛など、なにか不調がある。

B) 体調が悪くなり、病院に行ったところ PCR 検査を受けることになった(もしくは受けた場合)

C) 体調は悪くないが、「濃厚接触者」に認定され、PCR 検査を受けることになった

【A の場合】

- ① 速やかに滞在地の保健所に指示を仰ぐ。可能なら PCR 検査を実施して結果が出るまでは外部との接触を避け待機する。
- ② プロデューサーは、体調不良者が出た旨、メールで状況を関係者に共有する

【B・Cの場合】

- ① 報告書の作成にとりかかる
- ② 「濃厚接触疑い」の洗い出しを行う
- ③ 「PCR 受診者」および「濃厚接触疑い」該当者へ、自宅待機を指示
- ④ 報告書を関係者に共有する

■コロナ陽性が判明した場合

PCR 検査を受診し、陽性になった該当者について

- ① 「PCR 陽性・該当者」は、すみやかに自宅で待機し、保健所の指示を待つ
- ② 「PCR 陽性・該当者」は、保健所のヒアリングに対応し、「濃厚接触者」「自宅待機指示期間」に関しての保健所からの見解をプロデューサーに迅速に連絡をする
- ③ 保健所から指示された期間、療養し、回復後も制作現場と相談の上、より一層厳密に体調管理を行う前提で状況を見て慎重に復帰。

■コロナ陰性だった場合

体調が悪く PCR 検査を受診した場合

- ① 陰性だった旨をすみやかにプロデューサーに報告し、上記、【A の場合】に従い、所定の期間(発熱の場合は、熱が下がった後 5 日後まで)、自宅待機する
- ② 制作現場と相談の上、状況を見て慎重に復帰

「濃厚接触者」として PCR 検査を受診した場合

- ① 陰性だった旨をすみやかにプロデューサーに報告するが、「濃厚接触者」として指定された期間は引き続き自宅待機を継続する。
- ② 制作現場と相談の上、状況を見て慎重に復帰

■「濃厚接触疑い」に指定された場合

- ① 「濃厚接触疑い」に指定された場合、すぐに自宅待機をする
- ② 「PCR 陽性・該当者」に対し保健所から「濃厚接触者ではない」との見解が示された場合、制作現場と相談の上自宅待機を解除し、復帰。

■保健所より正式に「濃厚接触者」に認定された場合

- ① 保健所より正式に「濃厚接触者」の認定が出た場合、保健所の指示に従って自宅待機
- ② 自宅待機中に、PCR 検査を受けた場合、上記、【C の場合】に沿って対応を行う。
- ③ 保健所から指定された期間、自宅待機し、体調に問題がなければ、制作現場と相談の上、より一層厳密に体調管理を行う前提で状況を見て慎重に復帰。